

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化振興課

施設の名称 静岡市美術館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>設備管理及び機械警備・人的警備、昇降機の日常保守点検等、事業計画に沿って適切に行われている。また、エアハンドリングユニット加湿器電磁弁交換修繕等の修繕業務を合計7件行い、施設の適切な維持管理に努めている。</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>令和3年度の来館者総数は191,275人(前年度 235,248人)、そのうち展覧会観覧者数は5つの展覧会合計77,160人(前年度 109,088人)で、事業計画で設定した目標値の来館者総数300,000人(5年間で150万人)を下回った。前年度は目標観覧者数を大きく上回る展覧会があったが、今年度は年間を通じて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている。</p> <p>また、展覧会関連事業の参加者数は1,877人で前年度1,906人に比べ1.5%減少した。交流事業については、前年度は中止が相次いだため参加者数14人だったところ、令和3年度は事業を再開できたことと延期された10周年事業の開催により16,126人となり、大幅に増加した。連携事業については、前年度26,241人から4,486人に減少したが、一部事業が前年度で終了したことによる。</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>展覧会事業、展覧会関連事業、交流事業及び連携事業について、感染症対策を重ねながら極力開催することによって、施設理念である「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」の継続に努めた。</p> <p>① 展覧会事業</p> <p>展覧会事業では、共同企画展(平等院鳳凰堂と浄土院)をはじめ、植物画と陶磁器、日本近代絵画、西洋近代絵画などといった、多彩なジャンルの展覧会5展を開催した。</p> <p>「キューガーデン 英国王室が愛した花々 シャーロット王妃とボタニカルアート」展では、英国における自然科学の発展やキューガーデンの歴史を、18～19世紀の植物画とウェッジウッドの陶磁器など約130点を通じて紹介した。若年層を意識し、展覧会事業として初めてインスタグラム広告を出稿するなど様々な工夫を凝らした広報活動に取り組んだことは評価できる。</p> <p>「没後70年 吉田博展」では、初期の水彩・油彩画や写生帖や、主要な木版作品など作者を総合的・網羅的に紹介するような展覧会を開催した。展覧会満足度は98%を超え、図録購買率は歴代1位となるなど、緊急事態宣言の対象地域となったこともあり、観覧者数は伸び悩んだものの、満足度の高い事業を提供できた。</p>	

「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生」展は、アメリカの国民的画家、グランマ・モーゼスの最初期の油彩画から100歳で描いた絶筆など日本初公開を含む130点を紹介する、日本では16年ぶりとなる過去最大規模の回顧展として開催した。関連企画として、市高齢者福祉課との連携事業や、シニア向けプレゼント企画、初開催となる未就学児の親子スライドトークなど、展覧会関心層の間口を広げる取組を幅広い世代に向けて実施した。

「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」展は、約70点の出品作を通して、フランス近代風景画の歴史を紹介した。静岡音楽館との連携事業である「ミュージアムコンサート」や静岡県立大学と共催の講演会「県大×おまちゼミ」を実施し、美術ファンのみならず幅広い層に向けた発信も行った。

「平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰」展では、国宝である雲中供養菩薩像を筆頭に鳳凰堂ゆかりの名品等を中心に、平等院が守り伝えてきた信仰と美の遺産を紹介した。共同企画として、作品解説の一部を執筆し、学芸員の専門性を発揮することができた。人気声優が担当した音声ガイドのPRなど幅広い客層に向けた告知に努め、まん延防止等重点措置が解除された最終週に来館者数が大きく伸びたことは、粘り強い広報活動の結果であると評価したい。

② 展覧会関連事業

各分野のスペシャリストである講師の講演会、スライドトークでは「美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目標とする」という静岡市美術館の設置目的が達成できている。また、開催時期により、小中学校向けの団体鑑賞「ミュージアム教室」をスライドトーク形式にしたり、講演会をリモート開催とするなど、コロナ禍においても工夫しながら事業を実施できるよう努めている点を評価する。

③ 交流事業

Shizubi シネマアワー、しずびオープンアトリエ、しずびチビッコプログラム、各種ワークショップシリーズ等は、前年度はほとんど中止になったものの、運営方法や感染症対策を見直したことにより、その多くを開催することができた。

また、前年度から延期となっていた10周年記念事業「鈴木康広 まばたきの葉 | 未来の打ち合わせ場所」は市民参加型の作品であり、ランス展を目的に来館した市民にも好評を得るなど、意図せず現代の表現に出会うことができる静岡市美術館の交流ゾーンの性質を活かした事業となった。このような市民が気軽に利用できる空間を活用した事業は、市民の美術に対する興味・関心を喚起する機会として、有意義なものとなっている。

④ 連携事業

3館連携事業では、科学館、音楽館と連携し、各館の専門性を活かした内容の濃い事業を開催することができおり、市民が新たに関心をもつ機会となっている。特に「キューガーデン」展において、美術と科学両方の側面を持つボタニカルアートの魅力を多方面から紹介できたことは、まさに連携の成果といえる。

今後も様々な分野で連携しながら、幅広い層に対し、美術への関心を広げていってほしい。

展覧会の観覧者数及びその他事業の参加者数は下記のとおり。

① 展覧会事業

展覧会名	観覧者数	目標	達成率
キューガーデン 英国王室が愛した花々 シャーロット王妃とボタニカルアート	12,766人	20,000人	63.8%
没後70年 吉田博展	13,646人	20,000人	68.2%
生誕160年記念 グランマ・モーゼス展 一素敵な100年人生	16,437人	25,000人	65.7%
ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ	15,096人	23,000人	65.6%
平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰	19,215人	25,000人	76.9%

② 展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	39回	803人
展示解説	15回	282人
講演会、ギャラリートーク等	18回	788人

③ 交流事業

催事名	実施回数	参加者数
Shizubiシネマアワー	4回	197人
暦とあそぶワークショップ	中止	-
プレゼントワークショップ	4回	60人
しずびチビッコプログラム	3回	55人
しずびオープンアトリエ	1回	167人

④連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センター等との連携事業等	22回	16,634人
静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業	2回	60人

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

施設内に設置している「利用者の声」アンケートの他に、展覧会観覧者に対して事業ごとにアンケートを実施しており、意見・要望を積極的に取り入れる体制が整えられている点は高く評価できる。また、来館者からの意見・質問苦情等の情報共有の徹底に努め、困難な要望に対しても、前向きに検討し、良好な対応がとられているといえる。

〔具体的な意見・要望と対応状況〕

意見等：順路の矢印が欲しい。

対 応：順路の貼紙、スタッフの案内を徹底する。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

展覧会観覧者に対して事業ごとのアンケートを実施し、満足度調査を行っている。各展覧会の満足度調査では、今年度平均94.8%と目標の85%を大きく上回り来館者の期待に応えることができたといえる。

- ・「キューガーデン 英国王室が愛した花々 シャーロット王妃とボタニカルアート」92.9%（回答数：609）
- ・「没後70年 吉田博展」98%（回答数：1,117）
- ・「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生」96.5%（回答数：1,209）
- ・「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ」95.7%（回答数：741）
- ・「平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰」91.2%（回答数：1,637）

(2) 市民アンケート

令和3年度に（公財）静岡市文化財団が指定管理者となっている文化施設等で実施した市民アンケートによると、静岡市美術館の認知度は51.1%、利用率は33.9%であり、前年度から減少している。更なる認知度・利用率向上のため、JR静岡駅前という立地を活かし、引き続き積極的な広報活動や魅力的な事業展開を期待する。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。いずれの項目も「満足」「ほぼ満足」の合計割合は9割以上となっている。回答結果は下記のとおり。

- | | | |
|---|-----------|-----------------|
| ① | 職員の応対 | 91.6%（前年度92.9%） |
| ② | 清掃、整理整頓 | 95.8%（前年度89.3%） |
| ③ | 案内表示、掲示板 | 95.8%（前年度82.8%） |
| ④ | 開館日・開館時間 | 95.8%（前年度78.6%） |
| ⑤ | 空調・音響・照明等 | 91.6%（前年度89.3%） |

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を除いては、概ね予算のとおりに執行されている。

また、開催した展覧会において、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得るなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めており、非常に良好な状況である。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

《新型コロナウイルス感染症への対応》

新型コロナウイルス感染症への対応については、国等のガイドラインに沿った適切な対策を講じており、速やかにホームページへ掲出を行う等、適切な時期・方法により行われている。

事業については、コロナ禍を踏まえた手法を検討し、業務を実施しており、指定管理者の創意工夫が見られた。

令和3年度の交流ゾーンも加えた総入館者数は191,275人となり、新型コロナウイルスによる影響を除けば、中心市街地に立つ美術館として、文化を通じた街の賑わいの創出に寄与し、「芸術文化の交流拠点」としての役割を果たしたものと評価できる。

施設の維持管理業務に関しては、事業計画に従い各種点検業務や館内清掃業務等が滞りなく実施されている。

事業については、展覧会事業を柱として関連事業や交流事業及び連携事業を積極的に行っている。作品所蔵館や巡回各館とともに企画立案した共同企画展等、利用者の満足度も高い、充実した展覧会事業に加えて、教育機関や生涯学習施設の利用者に対し展覧会に関する解説を多数行うなど、都市型美術館ならではのメリットを十分に活かした運営がなされている。

駅前3館連携事業の実施では、これまで美術館に足を運んだことのない方が初めて美術館へ来館するきっかけとなっているほか、美術館を訪れた方が他の2館を訪れることもあり、中心市街地の回遊性を高めると同時に賑わいの創出にも貢献している。

また、年間を通じて、事業内容の充実のみならず、常に幅広い層への広報手段を検討し、新しい取組を実施していることを評価したい。今後も、より多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信できるよう様々な工夫を行ってほしい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。